

グループホームかもめの家

症 例 概 要 故 90代・女性・要介護5

アルツハイマー型認知症

氏は平成19年5月の東坂下事業所開設当初より、デイサービスをご利用頂き、その後、GHかもめの家へ入居。18年5か月もの間、我々と共に歳を重ねて下さいました。最期は、もはやご自宅とも言えるかもめの家でお看取りをさせて頂き、地域密着型サービスとして尊厳ある人生をお支えさせて頂いた、地域の要となった症例を推薦させて頂きます。

内 容

平成19年5月、東坂下事業所が施設して間もなく、1階デイサービスのご利用が開始となりました。障害者施設での勤務経験を持つ氏は非常に社交的であり、他認知症のあるご利用者への配慮や思い遣る親身な姿は、職員の手本とさせて頂いておりました。

ご自宅では一人娘の長女様と同居しながらデイサービスに通われておりましたが、ご利用開始から2年程経過したところで、記憶の保持が心配されることが増えてきました。長女様より、「通い慣れた場所にあるグループホームへ入所させてもらえないでしょうか?母も顔見知りの職員も多く、私も信頼している所に母をお任せしたい。」と、ご相談を受け、平成22年にGHへご入所となりました。

入所後も買物や料理、炊事洗濯を当たり前の様に行い、これまでと変わらず他のご利用者を思いやる優しい姿がありました。また、歌舞伎鑑賞、伊香保、浅草、巣鴨外出、動物園、水族館、東京タワーバスツアー、いちご狩り、ブドウ狩り、お芋掘りなど、あたかも自宅で生活している様に、我々と共に、沢山の思い出を作りました。長女様はお仕事が忙しく、なかなか面会に来れない状況ではありましたが、家族会へのご参加や節目の行事、また、必ず毎年お誕生日の際はケーキを持参して下さい、皆でお祝いさせて頂いたことを思い出します。

年齢を重ねていく中歩行がおぼつかなくなり、車椅子での生活となりますが、座位のままできる調理や洗濯物畳み、買い物や外出活動には参加には積極的に参加される日々が続きます。90代半ばより、食事量の低下や発熱を繰り返され、体力の低下や褥瘡発生など、徐々に様々な事がありました。その都度、氏が安らかに生活が出来るように支援して参りました。

何度も「もうダメかも・・・」と職員は思いましたが、変化があった際には夜間も対応してくださる主治医やケアポート板橋看護室、訪問歯科との細やかな連携により経口摂取を最後まで行って頂く細やかな関わり・連携を実施し、R6年10月中旬、穏やかな最期を迎えることが出来ました。ご家族より「長きに渡り、少しずつ機能が低下していく中、その時々状況に合わせて対応して頂きました。その死にあっても丁寧に尊厳を尊重した対応をして頂きました。10月の敬老祝賀会でもお神輿の賑やかさを最期に感じられて本当に良かったでした。」とお言葉を頂戴しました。

「最期かもしれない」という経験を繰り返し、その都度チーム一丸となって最善を尽くしケアを実践してきました。氏の看取りを経験したスタッフは寂しさもありますが、「沢山のことを学ばせて頂いた。」と受け止め、これからも更なる研鑽に努めて参ります。

ご利用者には輝きの笑顔と1日を、ご家族には安心を超えた感動、職員にはやりがいと成長の場をというValue(価値)を体現できたこの症例は、キラキラ介護賞に値すると思ひ推薦させていただきます。

専門職種：往診医師・看護師・歯科医・歯科衛生士・管理栄養士・介護士・自治会・町内会等